

『愛は屈せず、不滅の愛』〈淀橋教会機関紙「愛の祈り」より転載〉



『韓国孤児の母』と慕われた田内千鶴子さん。生前、韓国で孤児救済のために生涯をかけたクリスチャンで、「孤児の少ない社会」とともに日本と韓国のこころの交流を願っていました。彼女の生誕100周年を迎え、その遺志と精神を受け継ぎ、日本と韓国が手を携えて、親のいない子どもたちのために、「国連

World Orphans Day」を制定する推進大会が、千鶴子さんゆかりの地、木浦（モッポ）で2012年10月31日に開催されました。日本人代表として出席された淀橋教会主任牧師峯野龍弘先生が12月2日（日）と9日（日）の番組で2回にわたって推進大会の様子を伝えます。

『愛は屈せず、不滅の愛』

淀橋教会機関紙「愛の祈り」より転載

愛の人‘内田千鶴子’の生誕100年を迎えた。既に故人となって久しいが、実に愛は不滅だ。彼女はその愛の働きのゆえに今なお生きている。



時は、日本帝国時代総督府の役人の娘であった千鶴子が、人々から「乞食大将」と蔑まれていた韓国青年、これまた彼女に劣らぬ愛の人、尹到宏と結婚したのだ。彼は、親もなく住む家もない孤児たちを見つ

けた。彼は、自の住んで

ける教会に連れて来て、寝食を共にした。これこそが今日の「木浦共生園」の始まりであった。千鶴子は音楽教師をしてい

たが、彼の働きに共感し、大いに余暇を用いて彼を助け、奉仕しているうちに、いつしか二人の間に愛が芽生え、遂に夫婦となった。ところが間もなく戦争が激化し、対日感情は悪化し、日本人妻のいる共生園への食糧供給も途絶えて来た。そればかりか日に日に迫害が増し、帰国を迫られた。しかし、千鶴子は多くの身を寄せる哀れな子らを愛し夫を愛し決して片時も屈することはしなかった。縋りつく子らを強く抱きしめる千鶴子の愛は強かった。遂に日本帝国時代は終わったが、続いて朝鮮動乱が始まった。夫、到宏は連合軍に連行され、帰らぬ人となってしまった。反日感情はいよいよ高まり、共生園取り潰しの火の手があがった。夫に代わり園長となった日本人妻に対する風当たりは増し、共生園乗っ取り並びに取り潰しの嵐が激しく吹き荒れた。しかし、孤児の母千鶴子の愛は屈せず母の愛が勝利した。この不屈の愛が遂に韓国3000人の孤児を救った。真の愛、孤児の母千鶴子の愛には国境もなく、民族もない。ただそこには一筋の不滅にして永遠のアガペーがあった。



G. サーバント



サタデー・トーク

バイブル・トーク

きき手 尾崎一夫 毎週土曜日放送	淀橋教会 峯野龍弘主管牧師 毎週日曜日放送
12月01日 「BCLの日」特別対談 大武逞伯 x 赤林隆仁 (1)	12月02日 韓国孤児の母 田内千鶴子 (1)
12月08日 「BCLの日」特別対談 大武逞伯 x 赤林隆仁 (2)	12月09日 韓国孤児の母 田内千鶴子 (2)
12月15日 音楽ファンタジー：地球ぐるりクリスマス	12月16日 リスナーからの「お便り交換の時間」
12月22日 O ヘンリー原作「最後の一葉」朗読：長岡絵里子	12月23日 クリスマス特別メッセージ
12月29日 New logo 掲げて：リーチ・ビヨンドは今	12月30日 年末特別メッセージ

放送後の番組は、ホームページ(<http://japanese.reachbeyond.jp>)のトップページ左側メニューにある『インターネット放送』のリンクページからお聴きいただけます。(mp3形式)

放送時間：日本時間 午前7時半~8時 15410kHz (再放送) 午後8時~8時30分 11905kHz
(米国アリゾナ州制作/オーストラリア送信)

